

## 調査速報

# 道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2011年 12月 26日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-57-5997)

○2011年12月6日～15日に函館水試調査船金星丸を用いて道西日本海海域(檜山海域)のスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。調査結果速報は、下記の函館水試ホームページからご覧になれます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は延縄漁場とその周辺を中心に分布し、沖合域では少なかった。
- 魚群の分布水深はおよそ 180～450mであった(夜間)。
- 計量魚探による漁場とその周辺の魚群反応量は、2002 年以降、もっとも少なかった。
- トロール調査の漁獲物の体長は 40cm 前後のものが多かった。
- 水深 100m以深の水温は、乙部沖と上ノ国沖では 2006 年以降で最も低かった。江差沖では 2007 年以降で最も低かった。

### ● スケトウダラ魚群の分布

#### ・ 水平分布(図1, 2)

調査海域全体では、魚群の分布は熊石から上ノ国にかけてのスケトウダラ延縄漁場とその周辺に多く見られました(図1)。他に大成沖にもややまとまった魚群の分布が見られました。松前の江良の南西沖にもやや魚群の分布が見られました。

スケトウダラ延縄漁場内では、爾志海区(熊石沖～乙部沖)で多く、江差沖と上ノ国では少ない昨年と同じパターンになっていました(図2)。

以上の他に、奥尻島の南側の沖合海域や松前小島付近でも調査を行いました。魚群の反応は松前小島付近でやや見られた以外は、ほとんど見られませんでした。

#### ・ 鉛直分布(図3, 4)

魚群の分布は、①(42° 02. 5N線)で水深180～360mと昨年(170～300m)よりやや深め、②(41° 57. 5N線)では水深200～450mと昨年(190～400m)よりやや深めでした(図3 夜間の調査結果)。

日中の調査では、③(41° 52. 5N線)で水深400～450m (AM10～11時に調査)、④(41° 47. 5N線)では水深320～400m (AM7～8時に調査)に見られました(図4)。

### ● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚群反応量(図5)

檜山沿岸域(スケトウダラ延縄漁場周辺)の2011年の魚群反応量は2002年以降では最も少なく、2010年同期の94%でした(図5)。

### ● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図6)

大成沖と相沼沖で行った着底トロール調査では尾叉長40cm前後の2006年級群と思われるスケトウダラが多く漁獲されました。尾叉長40cm以下のスケトウダラの割合は大成沖が67%、相沼沖が56%で大成沖に40cm以下のスケトウダラが多く分布していました。

なお相沼沖で2010年の結果と比較すると、2010年は38cm前後の魚が多く、尾叉長の平均で見ると2011年の方が大きいです。

### ● 水温環境(図7)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国沖で水温の観測を行いました。水深100m以下では乙部沖と上ノ国沖では2006年以降で最も水温が低くなっています。江差沖では2006年よりやや高くなっていますが、2007年以降ではもっとも低くなっていました。

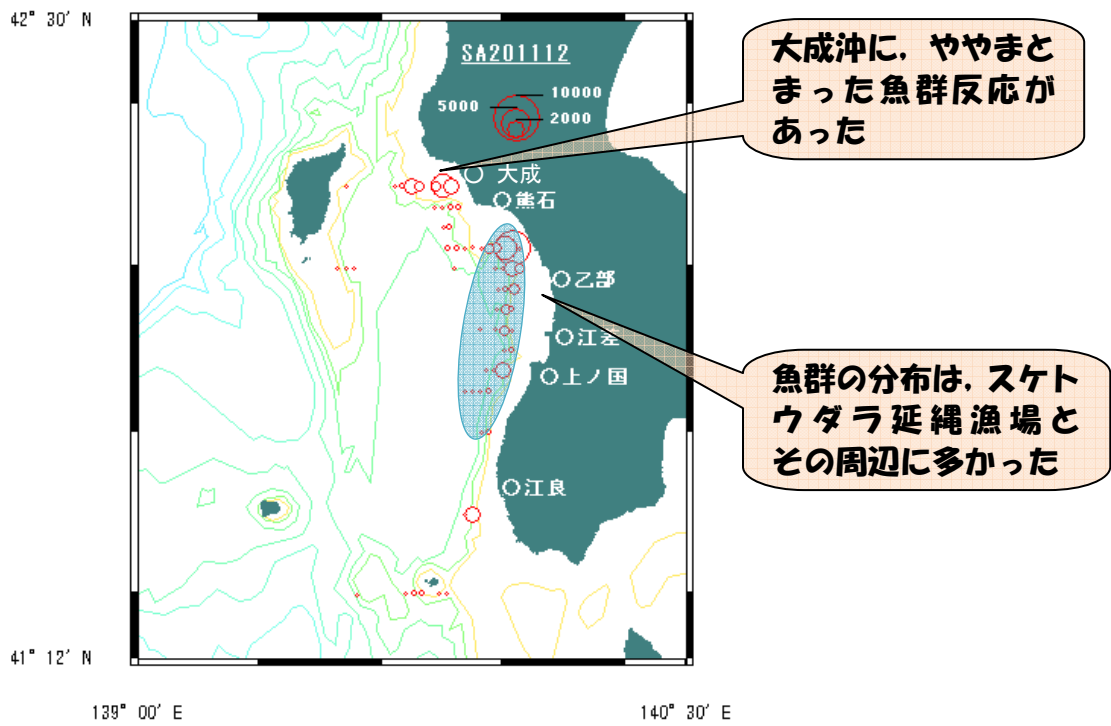


図1 調査海域全体の魚群の水平分布（2011年12月）

○の大きさが魚群反応量を示す  
 (Blue shaded area) : すけとうだら延縄漁場域

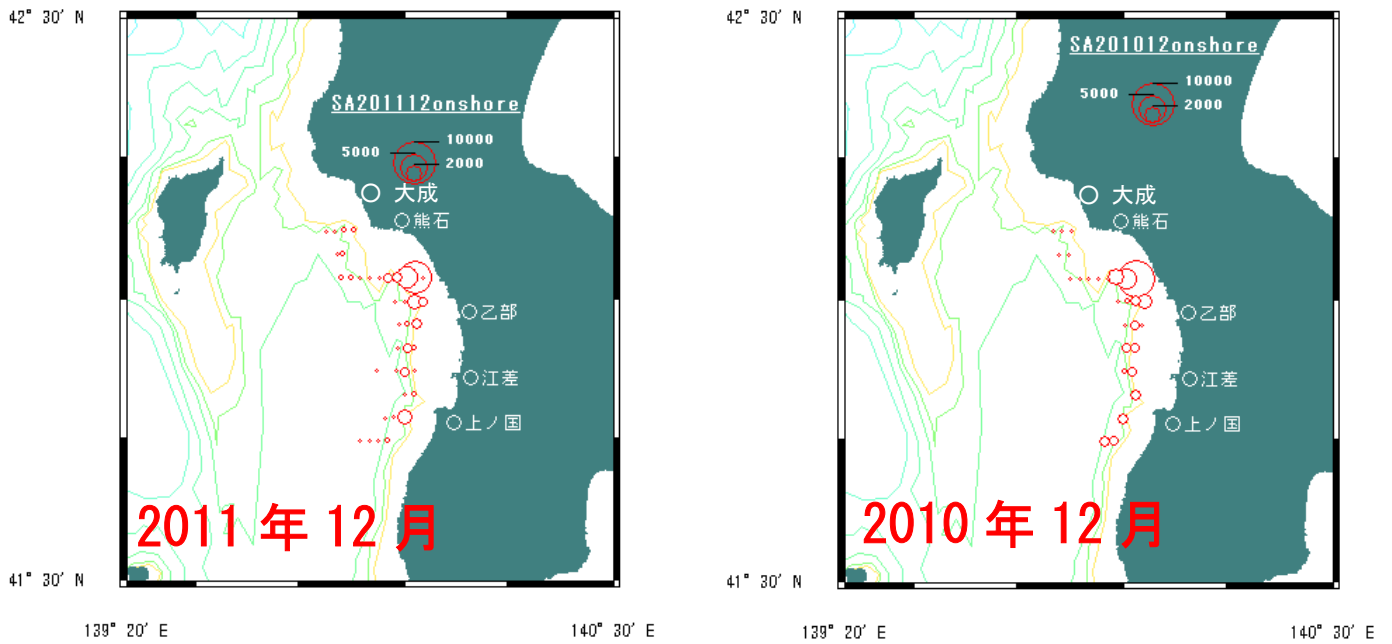


図2 すけとうだら延縄漁場とその周辺の魚群の水平分布（左：2011年，右：2010年）

○の大きさが魚群反応量を示す

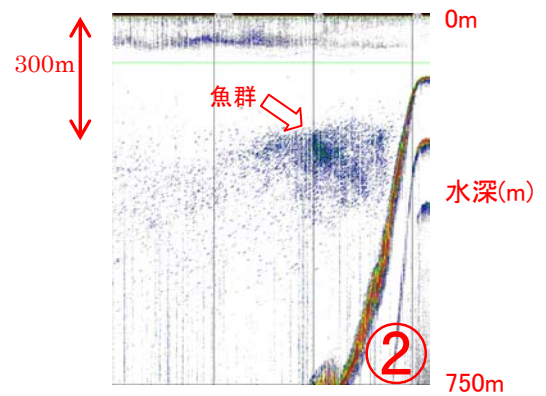
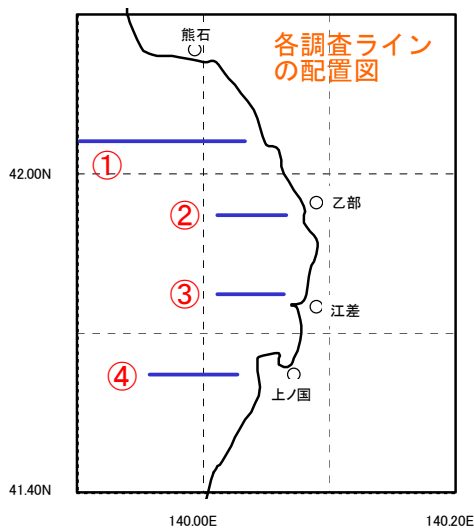
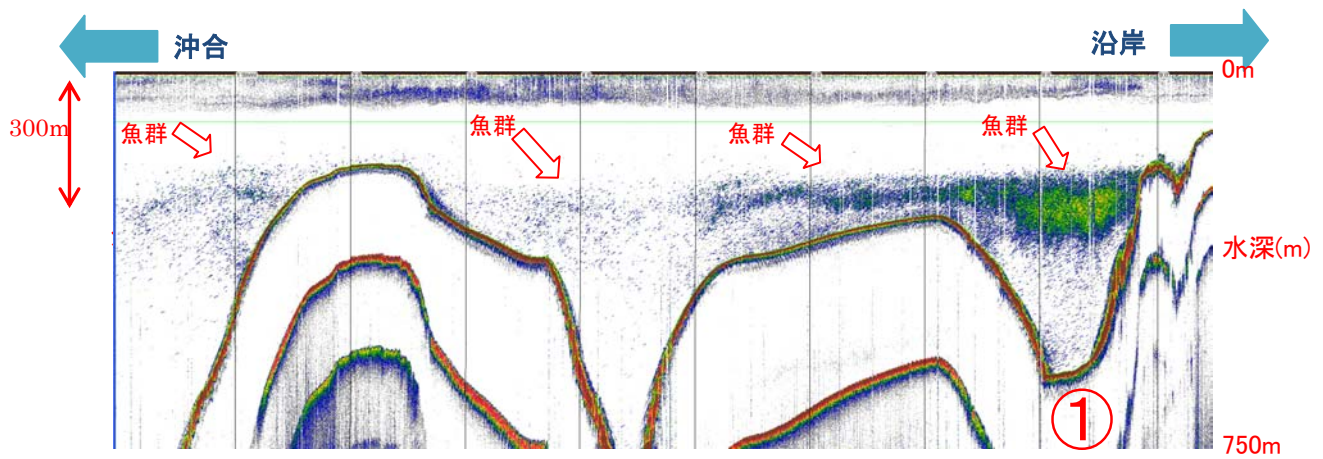


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)

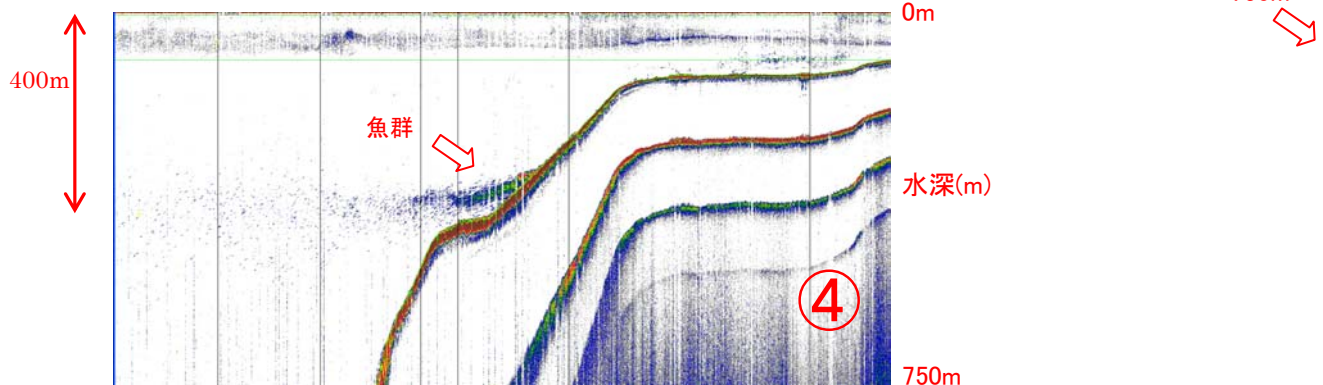
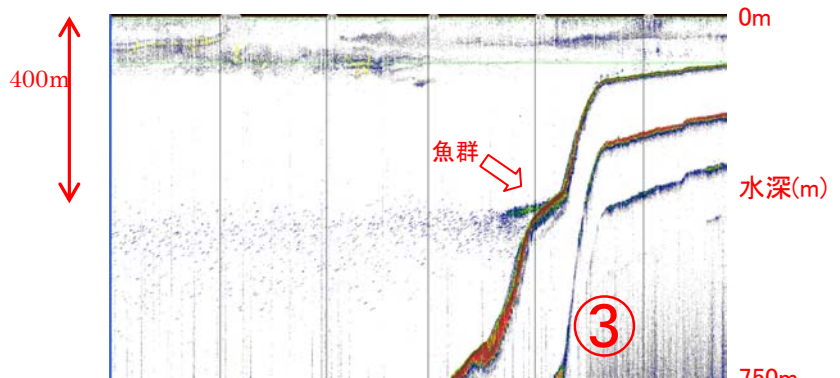
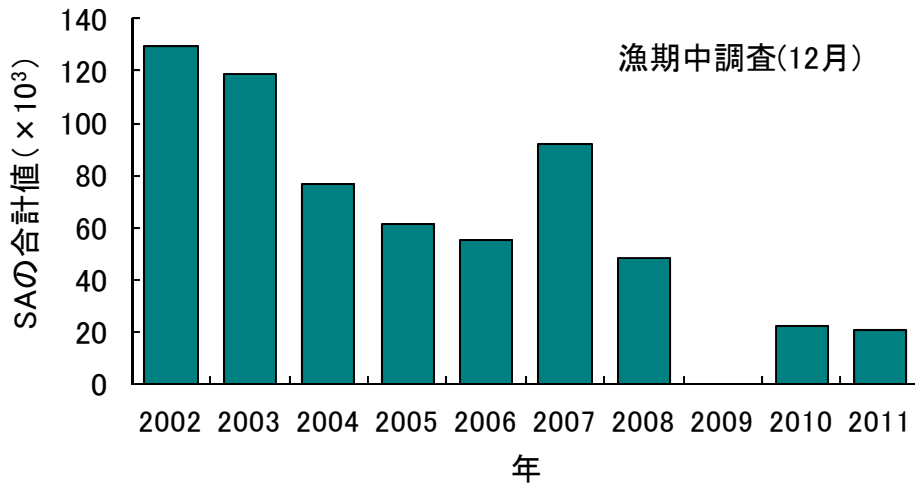


図4 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(日中に調査を実施)



※2009年は荒天で調査できず

図5 延縄漁場とその周辺(図2)の魚群反応量の年変化

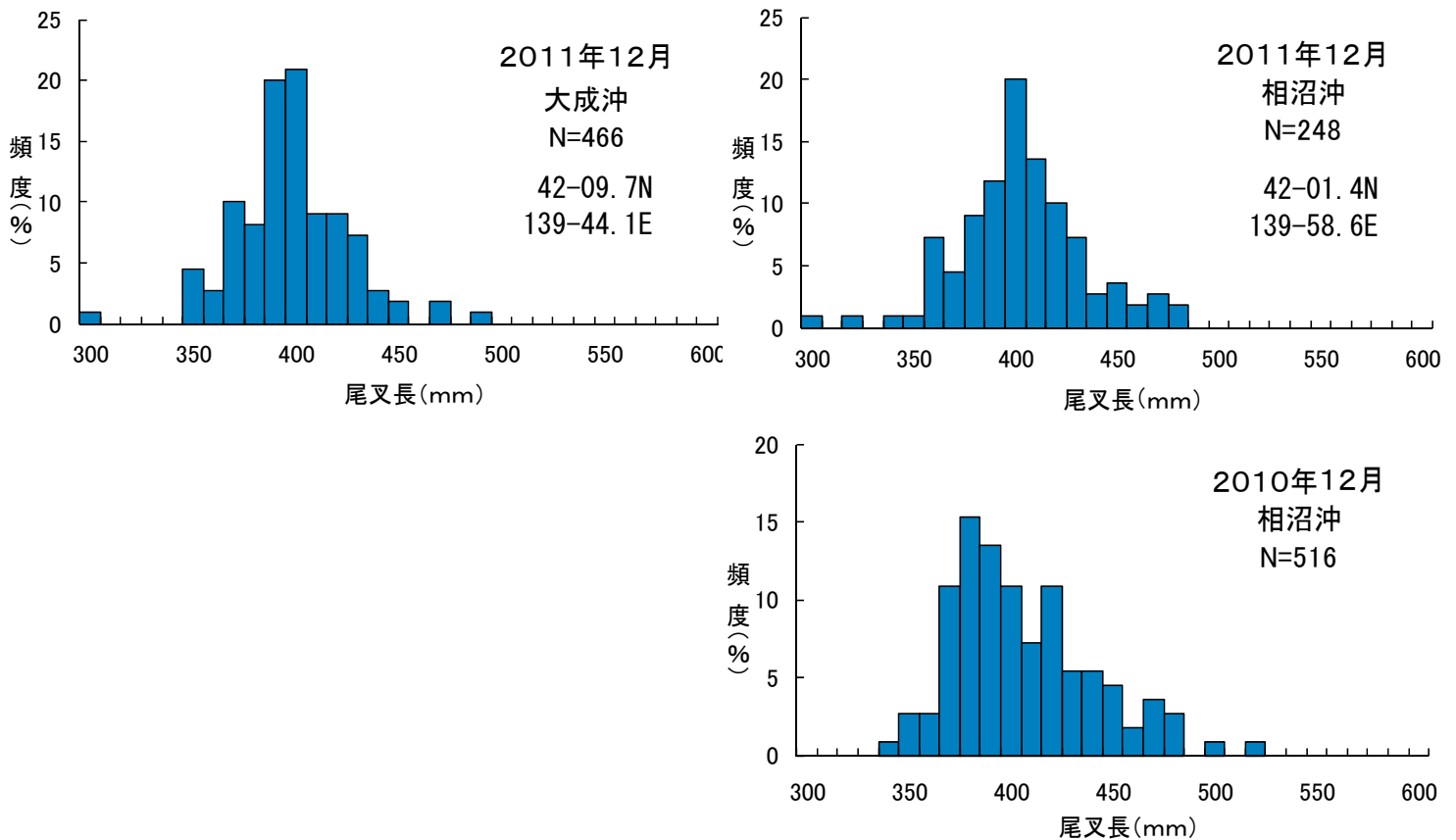
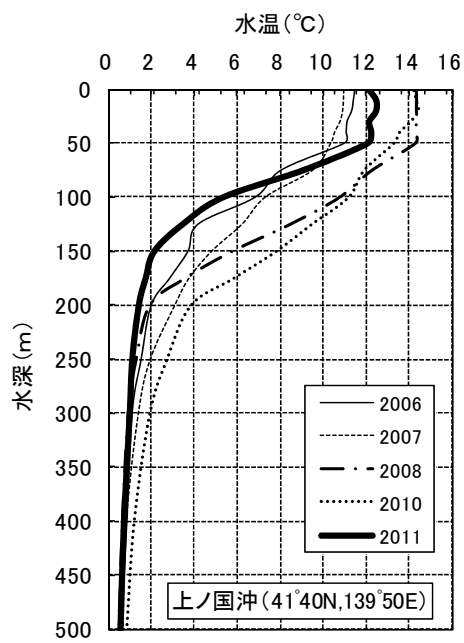
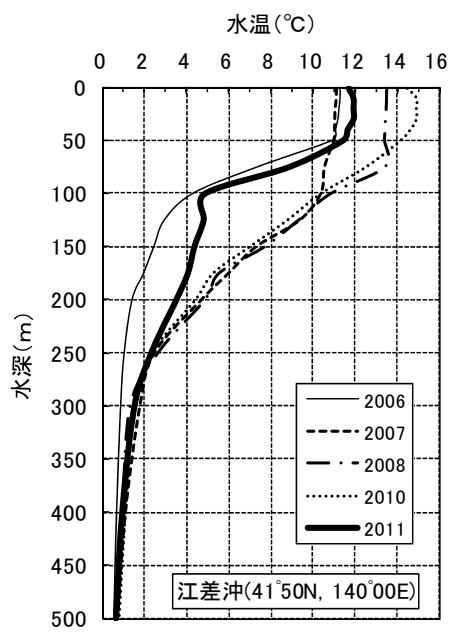
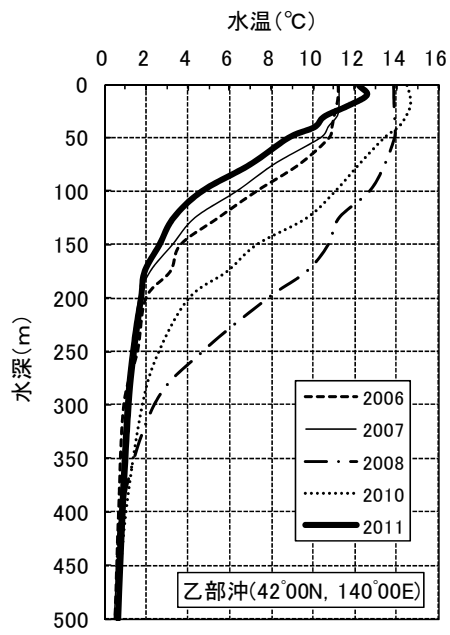


図6 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ  
(上: 2011年 下: 2010年)



※2009年は荒天で調査できず

図7 乙部沖(左上), 江差沖(右上), 上ノ国沖(下)の水温分布